

2020年6月8日

各位

天馬株式会社（コード：7958、東証一部）の  
株主提案の取締役候補者からのお知らせ

私たちが司治氏の指示に従って取締役候補者になったのか、という問い合わせ等があり、株主の皆様が誤解されているおそれがあります。

そこで別紙のとおり真相をお伝えします。

株主の皆様におかれましては、事実をご理解いただけますようお願い申し上げます。

以上

お問い合わせ先 坂井 一郎（080-6590-3731）

お問い合わせ対応は、勤務時間外の18時から20時までとします。

別紙記載内容の確認以外はお断りいたします。

以上ご協力お願い申し上げます。

注：本書は、本総会における会社提案議案及び株主提案議案のいずれについても、当会を構成する者又は第三者に議決権の行使を代理させることを勧誘するものではありません。

2020年6月8日

天馬の株主皆様各位

### 私たちが取締役候補になった理由について

私たちが株主提案の取締役候補に名を連ねていることについて、司・前名誉会長に言われて候補者に名を連ねているだけで、司・前名誉会長のために動いているだけではないかとの声の一部があると聞きました。それは全く事実と異なるので、このような形で天馬の株主の皆様にご説明させていただくことにしました。

私たちは、特に最近の会社の状況を見ていて、今の取締役体制では、会社がおかしくなると危機感をつのらせておりました。そして、現取締役が危機感を理解されない以上、取締役体制を正常化するには株主提案を通じて取締役を変更する以外にないと思うに至り、法律上、株主提案の権限をもっている司・前名誉会長に、株主提案をして頂くように本年4月18日に直訴しました。司・前名誉会長の号令の下に私たちが動いているなどというのは全くの誤解で、事実はその逆です。株主提案における取締役候補も、司・前名誉会長が決めたのではなく、私たち執行役員が皆で話し合っってベストな布陣ということで決めました。

私たちは全員天馬の執行役員で、現取締役と接しながら、日々、この会社の危機感を実感している者です。私たちがここまで思いつめることとなった原因のいくつかは以下のとおりです。

- (1) 海外贈賄について第三者委員会の設置が発表された後、会社トップ以下の現取締役に説明を求めましたが、第三者委員会からの調査報告書が提出されるまで説明しない、と断られました。
- (2) 第三者委員会の調査報告書が公表された後も、取締役から社員に対し説明はありません。通常、このような場合には、社内で説明のメールが流されたり、社員集会が開かれて会社トップから説明がなされたりするようですが、残念ながらそのようなことは一切ありません。
- (3) 第三者委員会の調査報告書が公表され、お取引先様から次々と問い合わせがありましたので、取締役に對し指示を出して頂けるよう頼みましたが、指示は特に出されませんでした。
- (4) 私たちは、再発防止策を、本年5月1日の会社HPのIRニュース（投資家情報）による開示ではじめて知りました。再発防止策の策定に我々執行役員は一切関与しておらず、意見も聞かれていません。
- (5) 5月11日にベトナムでの海外贈賄事件について新聞報道がなされた後も、通常の会社であれば当然行われるはずの会社トップからのお取引先様への

謝罪・説明・協力要請は一切ありません。私たちは、報道以来、毎日お取引先様への説明に追われています。

- (6) 会社からは、私たちを取締役候補とする株主提案を受け取った後も、私たちとの話し合いも、その呼びかけもありません。私たちの危機感を共有し信頼関係を再構築する、といった姿勢は、残念ながら全く感じられません。

私達も株主提案を取締役候補者として名を連ねることは避けたかったというのが正直なところですが、6月4日の会社側の一連の発表を見るにつけ、もはや株主総会において株主の皆様のご判断を頂く以外なくなりました。

5月27日の会社側の発表で会社提案の取締役候補を知り、私たちの危機感はさらに高まっています。

会社提案では、会社の売上高の8割弱を占める工業品合成樹脂製品関連事業の出身者が取締役候補にいません。工業品の上位のお得意先様は大企業で、1社あたりの売上高は数十億円、多い先は100億円以上にも達します。特定の海外工場のほとんどの受注を支えて頂いている先もあります。その信用を失い、発注が減少したときの会社への打撃は深刻です。

現在の会社の危機的状況、コーポレート・ガバナンス不在の状況にあつて、工業品のお得意先様から、この社長であれば、コンプライアンスの徹底はもちろん、お得意先様の望んでおられることを真に理解し誠実に実現してくれるだろうと信頼して頂ける社長が、今、天馬のためには必要不可欠なのです。それが株主の皆様が求める天馬の再生、成長につながります。

ところが会社提案の取締役候補には、今回の海外贈賄の関与者3名が含まれているだけでなく、社内取締役候補の残る2名はハウスウェア合成樹脂製品関連事業の出身者です。工業品のお得意先様からすると、海外贈賄事件について全く反省していない、天馬の売上げの大半を支えている工業品合成樹脂製品関連事業を軽視しているのではないかと受け取られかねません。もちろん、私たちは、何か出身部門がどうこうといった、派閥レベルの次元で動いているわけではありません。そうであるからこそ、株主提案の取締役候補には、ハウスウェア部門を生産・販売の両面で支えている川村修治・淵上敬亮両氏に入ってもらっています。今のところ二人が、株主提案が通った場合でも取締役に就任するつもりはないと話していることは残念ですが、両氏にもしがらみがありますし、今はそのようにしか言えないことは十分理解できます。二人とも、株主提案が通って、実際に取締役に選任された場合には、取締役として、私たちと一緒に天馬の再生に力を尽くしてくれるものと信じています。

私たちは、会社も現取締役のいずれも、その信用・名誉を毀損するつもりなど一切ありませんし、そのようなこともしていません。

会社は私たちの家族の生活の支えであり、何より私たちの人生の大半を会社に捧げてきました。多くの社員も私たちの心の支えです。

私たちは、その愛する会社を取り返しのつかない方向に進んでいるのを正常な軌道に戻さねばならないという責任感から、あえて火中の栗を拾いました。

天馬の株主の皆様には何卒ご理解頂けますよう、お願い申し上げます。

以 上

2020年6月8日

坂 井 一 郎

坂井一郎

春 山 幸 雄



館 野 一 治



柳 澤 成 之



筒 野 信 之 進



江 河 知 寿

